

環境経営レポート

エコアクション21活動実績報告

運用期間：2023年7月1日～2024年6月30日

レポート発行日：2024年10月30日

コウフ・フィールド株式会社



〒812-0892

福岡県福岡市博多区東那珂2-19-25

TEL 092-481-8639

FAX 092-474-3955

<http://www.kofu-field.com/>

Evolving Through Creativity and Technology

目 次

1. 組織の概要	．．．． P 1
2. 認証・登録の対象組織、活動	．．．． P 1
3. 実施体制	．．．． P 2
4. 環境経営方針	．．．． P 3
5. 環境経営目標及び実績	．．．． P 4
6. 環境経営計画の実績と評価、次年度の取組内容 及び環境経営目標	．．．． P 7
7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	．．．． P 8
8. 環境関連法規の遵守状況、違反・訴訟の有無	．．．． P 9
9. 代表者による全体評価と見直し	．．． P 1 0
10. その他の環境経営活動	．．． P 1 1

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

コウフ・フィールド株式会社
代表取締役 加治木 英隆

(2) 所在地

本 社 福岡県福岡市博多区東那珂 2-19-25
東 京 支 店 東京都荒川区西尾久 5-7-25
関 西 支 店 大阪府大阪市淀川区西宮原 3-2-1
福 岡 支 社 福岡県みやま市瀬高町大江 182-10
南 九 州 支 店 鹿児島県鹿児島市鴨池 1-14-13
沖 縄 支 店 沖縄県那覇市宇栄原 673
北 海 道 支 店 北海道札幌市白石区菊水元町九条 2-10-12
長 崎 営 業 所 長崎県長崎市花丘町 1-24

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者および担当者 管理本部統括 村上保信 連絡先 TEL 092-481-8639

(4) 事業内容

【建設業】国土交通大臣許可 特-30 第20352号 他
土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、機械器具設置工事業、造園工事業
建築工事業、内装仕上工事業、鋼構造物工事業、屋根工事業、解体工事業、他
【一級建築士事務所】福岡県知事登録 第1-60293号
【宅地建物取引業】福岡県知事 (2) 第17361号
【産業廃棄物収集運搬業】福岡県知事 04000101057 ※業としての活動なし

(5) 事業の規模

売上額 2023年度 1,898百万円

	本社	福岡支社	北海道支店	東京支店	関西支店	南九州支店	沖縄支店	長崎営業所	年度末計
従業員	13名	10名	4名	5名	3名	5名	6名	2名	48名
延べ床面積	173㎡	168㎡	121㎡	65㎡	53㎡	96㎡	116㎡	38㎡	830㎡

(6) 事業年度 7月1日～6月30日

(7) 法人設立年月 昭和49年5月

(8) 資本金 4,000万円

2. 認証・登録の対象組織、活動

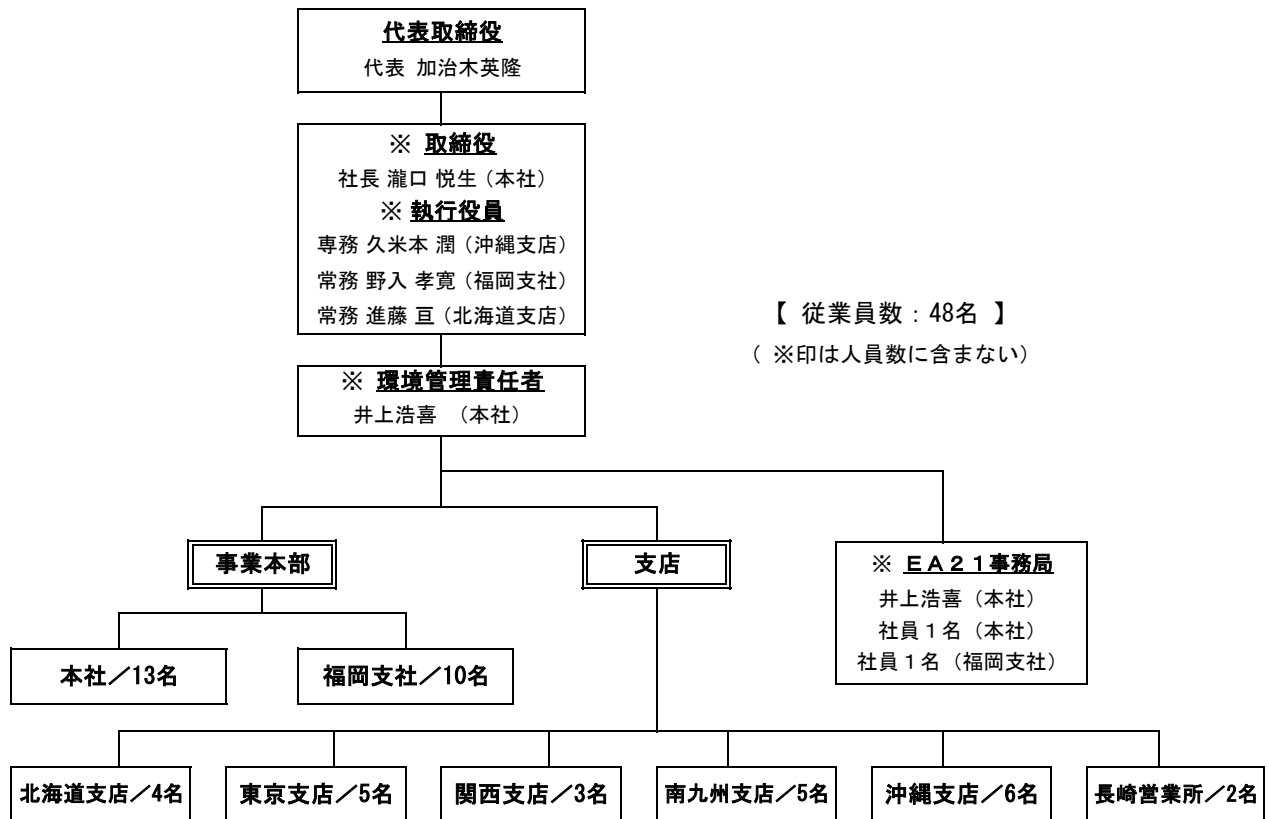
(1) 対象組織

本社、福岡支社、北海道支店、東京支店、関西支店、南九州支店、沖縄支店、長崎営業所

(2) 事業活動

土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、機械器具設置工事業、造園工事業、建築工事業、防水工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、内装仕上工事業、石工事業、塗装工事業、鋼構造物工事業、屋根工事業、水道施設工事業、板金工事業、解体工事業、一級建築士事務所、宅地建物取引業、物販事業

3. 実施体制



【 役割分担表 】

所 属	役割・責任・権限
代表者	- 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ - 経営における課題とチャンスを確認にする - 環境経営方針を作成、見直し、従業員に周知する - 環境管理責任者、E A 2 1事務局員を任命する - 環境への取組を実施するための資源（人・もの・金）を準備する - E A 2 1全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する - 環境関連法規の取りまとめ以外の制改定責任者
環境管理責任者	- E A 2 1ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる - 環境経営目標、環境経営活動計画を作成する - 環境経営目標の達成状況及び環境経営活動計画の進捗を監視する - 上記の結果を代表者に報告する - 環境関連法規の取りまとめの制改定責任者
E A 2 1事務局	- 環境管理責任者を補佐し、E A 2 1文書、記録及び基礎データの作成維持、集計、管理を行う - 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
取締役・役員・部門長	- 環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境経営活動計画を部門全員に周知する - 環境経営目標達成の責任者として自部門の環境経営活動を推進する - 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する - 自部門に関連する法規制等を順守する - 自部門の教育、訓練を実施する
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を理解する - 決められた方針、計画を守り、積極的に環境活動へ参加する

4. 環境経営方針

当社は建設業を通じて、地球温暖化防止の観点から事業活動を捉え、環境への負荷を可能な限り削減することを目標として行動し、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 基本方針

- (1) 低燃費車や低排ガス車など、燃料使用量の少ない車両の導入によって二酸化炭素排出量の削減に努める
- (2) 事業活動によって発生する建設廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進を図る
- (3) 事業活動のあらゆる場面で節電・節水をはじめとする省エネ・省資源に努め、エネルギー使用量及び環境への負荷の削減を目指す
- (4) グリーン調達や環境に配慮した原材料の採用を積極的に行い環境負荷の軽減を行う
- (5) 環境に配慮した設計・計画を提案し、環境負荷の少ない工法の採用を推進する

2. 環境関連法規の遵守

平成 23年11月1日 制定

令和 3年 7月 1日 改定

コウフ・フィールド株式会社

代表取締役 加治木 英隆

5. 環境経営目標及び実績（1／3）

環境目標		単位	<基準値> 2020年度 実績 (2020/7 ～2021/6)	2021年度 (2021/7 ～2022/6)	2022年度 (2022/7 ～2023/6)	2023年度 (2023/7 ～2024/6)		2024年度 (2024/7 ～2025/6)
							達成率	
1	二酸化炭素排出量の削減 2024年度までに基準値から4.0%削減	kg-CO2	124,168	122,926	124,556	123,287		122,016
		削減率(%)	2020年度 実績	△1.0	△2.0	△3.0		△4.0
		実績	—	115,641	128,971	113,597	107.9%	
	【内訳】 購入電力 ガソリン (軽油の実績は集計対象外)	目標	—	20,431	20,224	20,019		19,812
		実績	20,638	21,880	21,328	22,351	88.4%	
		目標	—	102,495	104,332	103,268		102,204
		実績	103,530	93,761	107,643	91,247	111.6%	
		軽油	実績	—	16,013	12,129	11,821	
2	一般廃棄物排出量の削減 2024年度までに基準値から4.0%削減	kg	426	422	417	413		409
		削減率(%)	2020年度 実績	△1.0	△2.0	△3.0		△4.0
		実績	—	416	434	405	101.9%	
3	建設廃棄物排出量の削減 種別ごとに現状把握（数値目標なし）	t	408	—	—	—		—
		—	過去5年平均 2016～2020	排出量記録	排出量記録	排出量記録		排出量記録
		実績	—	58.1	74.2		—	
4	建設廃棄物のリサイクル率の向上 リサイクル率100%の維持	%	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0
		—	—	適切管理	適切管理	適切管理		適切管理
		実績	—	100.0	100.0		100.0%	
5	紙資源使用の削減 2024年度までに基準値から4.0%削減	A4・枚	75,000	74,250	73,500	72,750		72,000
		削減率(%)	2020年度 実績	△1.0	△2.0	△3.0		△4.0
		実績	—	60,000	50,000	35,000	151.9%	
6	化学物質の適正管理 使用状況の把握（数値目標なし）	—	—	—	—	—		—
		—	—	適切管理	適切管理	適切管理		適切管理
		実績	—	0.0	—		—	
7	水使用量の削減（事務所の節水） 社員の節水意識の向上を図る	—	—	—	—	—		—
		—	—	節水活動	節水活動	節水活動		節水活動
		実績	—	—	—		—	
8	グリーン購入（事務用品・消耗品等） 2024年度までにエコマーク商品の採用率 80%を目指す	%	64.7	68.5	72.3	76.1		80.0
		採用率(%)	2020年度 実績	+3.8	+7.6	+11.4		+15.3
		実績	—	67.6	62.3	69.4	91.2%	
9	環境配慮型施工の推進 提案数把握（数値目標なし）	件	—	—	—	—		—
		—	—	提案推進	提案推進	提案推進		提案推進
		実績	—	0.0	0.0	0.0	—	

※「二酸化炭素排出量の削減（ガソリン）」の目標値は、長崎営業所の2021年度の実績値に基づき2022年度以降修正。

※ 二酸化炭素排出量（購入電力）は、R 3.7.19 環境省公表の調整後排出係数（単位 kg-co2/kWh）で計算している。
（九州電力 0.371、北海道電力 0.601、東京電力 0.442、関西電力 0.318、沖縄電力 0.787）

※ ガソリン使用量には工事現場におけるガソリン使用量も含む。

※ 排水の削減は、水道が他社との共同利用により使用量の個別管理ができないため、数量把握はしていない。

※ 削減目標の達成率は、(((目標-実績)／目標)+1)×100 により算出している。

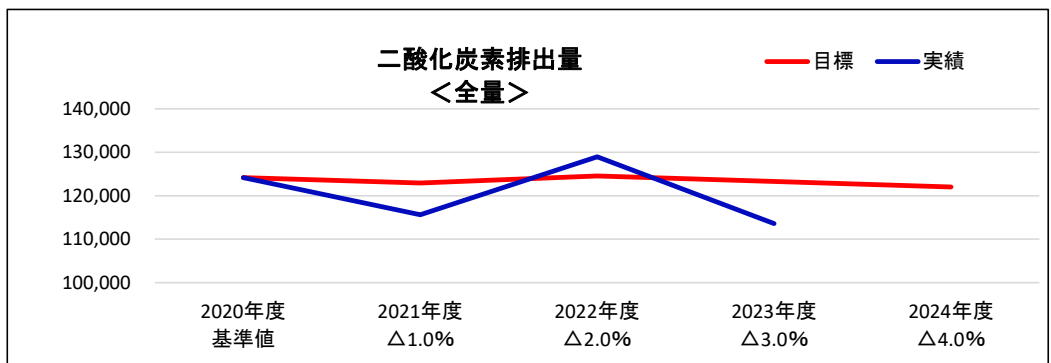
5. 環境経営目標及び実績（2／3）

1. 二酸化炭素排出量の削減

2024年度までに基準値から4.0%削減

■全量

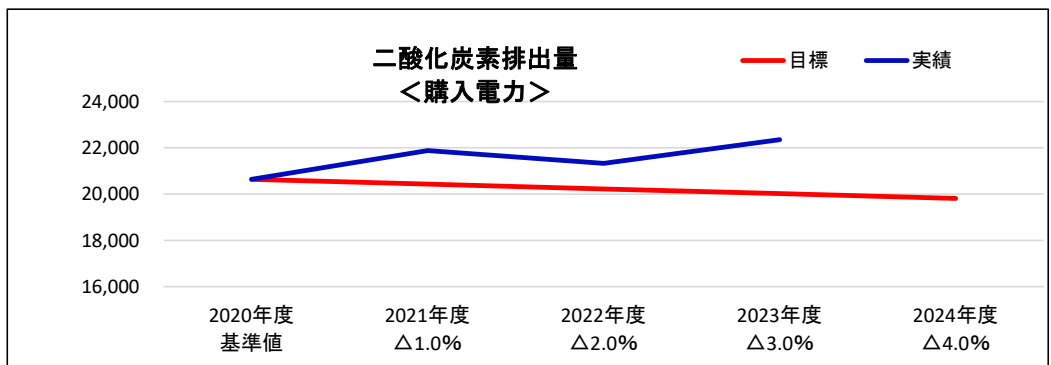
(kg-CO ₂)	2020年度 基準値	2021年度 △1.0%	2022年度 △2.0%	2023年度 △3.0%	2024年度 △4.0%
目標	124,168	122,926	124,556	123,287	122,016
実績	124,168	115,641	128,971	113,597	
達成率 (%)	—	105.9%	96.5%	107.9%	



74

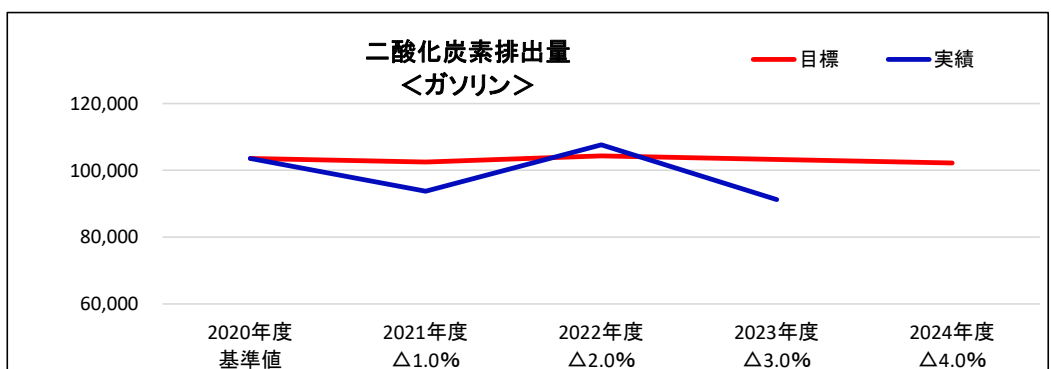
■購入電力

(kg-CO ₂)	2020年度 基準値	2021年度 △1.0%	2022年度 △2.0%	2023年度 △3.0%	2024年度 △4.0%
目標	20,638	20,431	20,224	20,019	19,812
実績	20,638	21,880	21,328	22,351	
達成率 (%)	—	92.9%	94.5%	88.4%	



■ガソリン

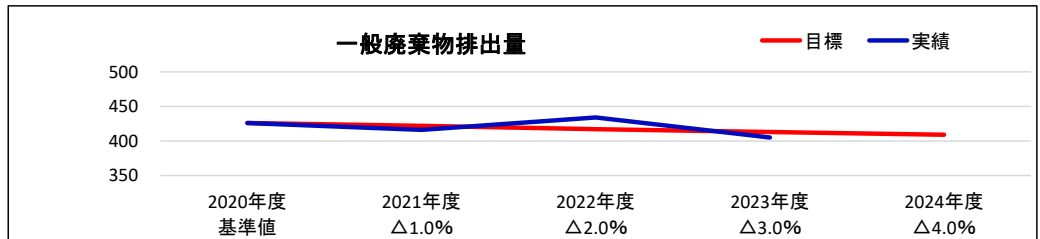
(kg-CO ₂)	2020年度 基準値	2021年度 △1.0%	2022年度 △2.0%	2023年度 △3.0%	2024年度 △4.0%
目標	103,530	102,495	104,332	103,268	102,204
実績	103,530	93,761	107,643	91,247	
達成率 (%)	—	108.5%	96.8%	111.6%	



5. 環境経営目標及び実績 (3/3)

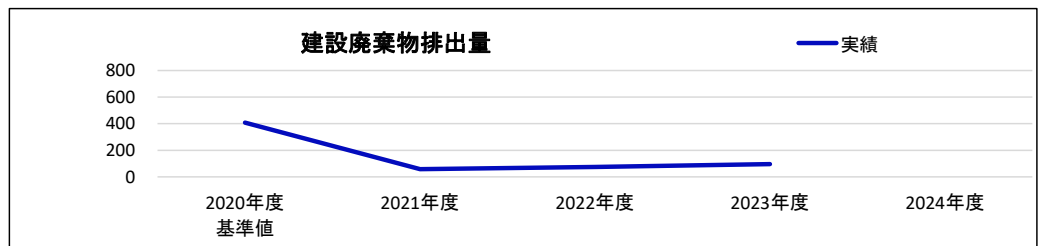
2. 一般廃棄物排出量の削減 2024年度までに基準値から4.0%削減

(kg)	2020年度 基準値	2021年度 △1.0%	2022年度 △2.0%	2023年度 △3.0%	2024年度 △4.0%
目標	426	422	417	413	409
実績	426	416	434	405	
達成率 (%)	—	101.4%	95.9%	101.9%	
削減率 (%)	—	102.4%	98.2%	105.2%	



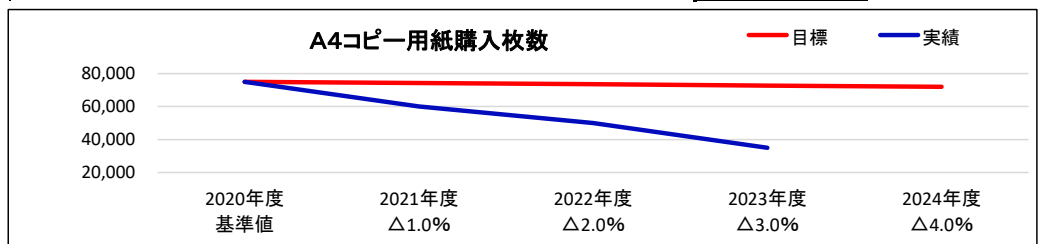
3. 建設廃棄物排出量の削減 現状把握 (数値目標なし)

(t)	2020年度 基準値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	—	—	—
実績	408.0	58.1	74.2	96.7	



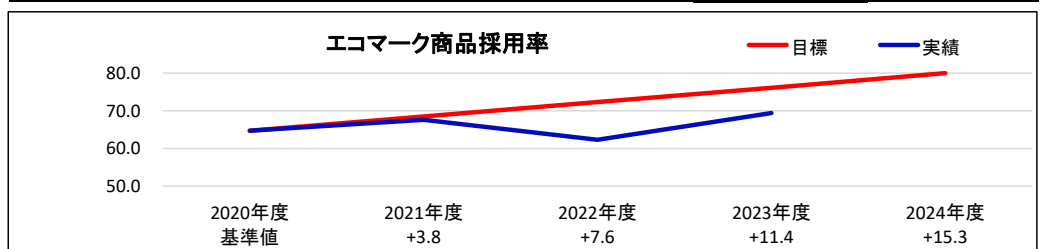
5. 紙資源使用の削減 2024年度までに基準値から4.0%削減

(A4・枚)	2020年度 基準値	2021年度 △1.0%	2022年度 △2.0%	2023年度 △3.0%	2024年度 △4.0%
目標	75,000	74,250	73,500	72,750	72,000
実績	75,000	60,000	50,000	35,000	
達成率 (%)	—	119.2%	132.0%	151.9%	



9. グリーン購入(事務用品・消耗品等) 2024年度までにエコマーク商品の採用率80%を目指す

(%)	2020年度 基準値	2021年度 +3.8	2022年度 +7.6	2023年度 +11.4	2024年度 +15.3
目標	64.7	68.5	72.3	76.1	80.0
実績	64.7	67.6	62.3	69.4	
達成率 (%)	—	98.7%	86.2%	91.2%	



6. 環境経営計画の実績と評価、次年度の取組内容及び環境経営目標

6.1 環境経営計画の実績と評価、次年度の取組内容

達成状況の判定 ○:達成率≧100% △:100>達成率≧95% ×:達成率<95%

実施状況の判定 ○:実行されている △:実行されているが十分でない
×:実行されていない —:判定できない、該当しない

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
購入電力 2024年度までに 基準値から4.0%削減	×	電気器具の購入の際には省エネルギー型を積極的に採用。照明器具はLED照明への転用を実施	－	今年度、対象となる購買活動がなかった。	活動を継続
		照明器具・エアコンフィルターの定期的な清掃	○	12月と6月に実施した	夏と冬、各一回実施
		休憩時間、退室時の消灯運動	○	継続し確実に実施されている	活動を継続
		照明看板に ON・OFFタイマーの設置(維持管理)	○	継続し確実に実施されている	活動を継続
		終業時の電気器具の電源OFF(チェック表活用)	○	継続し確実に実施されている	活動を継続
⇒ 今年度排出量は 目標 20,019kg-CO2 に対し 実績 22,351kg-CO2 である (達成率 88.4%)					
ガソリン 2024年度までに 基準値から4.0%削減	○	車両入替時に低燃費車・ハイブリッド車を採用	○	今年度HV車 3台増 4台減 (全39台中27台 69.2%導入)	活動を継続
		エコドライブ(急発進急加速の禁止・停車中のエンジン停止・信号停車時等の早めの減速)の推進	△	啓発ポスターを掲示。ミーティング時等に口頭にて啓蒙	活動を継続
		走行距離報告書(月報)の記録・提出	○	記録・提出されている	活動を継続
		排ガスや騒音のレベルを抑えるための定期的な点検・整備	○	スケジュールに基づき整備を実施している	活動を継続
⇒ 今年度排出量は 目標 103,268kg-CO2 に対し 実績 91,247kg-CO2 である (達成率 111.6%)					

2. 一般廃棄物排出量の削減

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
2024年度までに 基準値から4.0%削減	○	使用済封筒の再利用・ダンボールを宅配便等の梱包材への転用等の推進	○	削減活動は積極的に行ったが目標未達となった(95.9%) 更なる活動の徹底を図る	活動を継続
		廃紙やシュレッダーくずを古紙リサイクル業者へ委託 詰め替え可能な商品を積極的に利用する			活動を継続

3. 建設廃棄物排出量の削減

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
種別ごとに排出量把握	(排出量記録)	建設廃棄物の排出量を種別ごとに把握し記録する	○	排出量の把握は適切に実施できている	活動を継続

4. 建設廃棄物のリサイクル率の向上

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
リサイクル率100%を維持	○	現場での建設廃棄物の分別・リユース・リサイクルに努める	○	適正に行われている	活動を継続
		廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行う	○	適正に行われている	活動を継続

5. 紙資源使用の削減

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
2024年度までに 基準値から4.0%削減	○	社内文書のコピー・プリントの際は裏紙使用を徹底し、用紙類の購入削減を図る	○	オンライン会議・クラウド活用によるペーパーレス効果が顕著であった(達成率132.0%)	意識付けの徹底継続
		オンライン会議・クラウドへの文書保管等によりペーパーレスを推進	○		利用範囲の拡大

6. 化学物質の適正管理

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
使用状況の把握 (数値目標なし)	(適切管理)	建設現場等で使用する化学物質は、生分解性等の環境にやさしい製品の使用促進を行う	—	期間中に使用を検討する現場がなかった	活動を継続
		除草剤、殺虫剤の使用の削減方法の情報収集に努め、薬剤使用量の削減に取り組む	○	情報収集は取引業者やインターネット等で取得している	意識付けの徹底を図る

7. 水使用量の削減(事務所の節水)

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
節水意識の向上を図る (数値目標なし)	(現状維持)	蛇口をこまめに締める等、日常的に節水を励行	○	水回りに節水ステッカーを貼付	活動を継続
		社用車の洗車を必要最小限に留める。洗車する場合は節水を心がける	○	節水を意識した利用ができています	活動を継続
		定期的に、水道配管からの漏水を点検する	○	月1回程度、チェックを行った	活動を継続

8. グリーン購入(事務用品・消耗品等)

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
2024年度までに エコマーク商品の採用率80%を目指す	×	コピー用紙、事務用品、消耗品、OA機器等について、エコマーク商品への転換を図るとともに実際の採用状況を把握する	○	請求書にて確認、記録している	活動を継続
		コピー用紙、事務用品についてグリーン商品の採用率(%)の把握	○	目標達成率86.2%	活動を継続

9. 環境配慮型施工の推進

取組対象	達成状況	活動項目	実施状況	評価	次年度活動項目
提案推進 (数値目標なし)	(実績なし)	屋上・壁面緑化工事の提案など環境配慮型施工の推進。緑化素材として天然芝はもとより、緑化用植物「常緑キリン草」を提案	○	採用数は少ないが提案営業を中心に活動を継続・推進している	活動を継続

6.2 次年度の環境経営目標

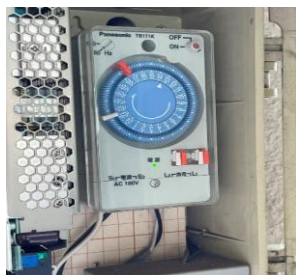
次年度の環境経営目標は、今年度の目標の延長として、環境経営計画の基準値より4%削減とする。

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減（購入電力）



駐車場照明の点灯コントロール
夜間のみオートON



照明看板の点灯コントロール
日中、深夜はオートOFF



LED照明の積極導入
倉庫、事務所の照明のLED化

1. 二酸化炭素排出量の削減（ガソリン）

登録番号	車名	車種 (★=HV)
福岡 330 ち 0000	CR-V	★普通乗用
福岡 347 さ 0000	ヴェゼル	★普通乗用
福岡 504 ち 0000	アクア	★小型乗用
福岡 504 そ 0000	シャトルHV	★小型乗用
久留米 501 に 0000	カローラフィールダー	小型乗用

車両管理リスト
ハイブリット車の採用率 69.2%(台数比)



エコドライブの推進
事務所内に啓発ポスターを掲示

2. 一般廃棄物排出量の削減



古紙リサイクル業者の活用
再利用できないコピー用紙等のリサイクル

3. 建設廃棄物排出量の削減

2022年7月～ 産業廃棄物排出量		2022年				
(単位: t)		7月	8月	9月	10月	11月
再資源化	汚泥	1.10t/m3				
	廃プラスチック	0.35t/m3	1.6	1.4	1.1	0.7
	紙くず	0.30t/m3				
	木くず	0.55t/m3		4.0		0.4
	繊維くず	0.12t/m3				
	ゴムくず	0.52t/m3				
	金属くず	1.13t/m3		0.2		0.3
ガラス・陶磁器くず		1.00t/m3				

建設廃棄物の種類別の数量把握
建設廃棄物の種類別の数量を確認

5. 紙資源使用の削減

オンライン会議の積極活用



北海道から沖縄まで全拠点間の会議、ミーティングを「ZOOM」を活用し実施

クラウド利用により社内文書の削減



データ管理システム「Box」を活用し、社内文書の多くを保存、共有

8. 水使用量の削減（事務所の節水）



節水ステッカー
洗面所、台所等へ節水ステッカーを貼付

8. 環境関連法規の遵守状況、違反・訴訟の有無

当社の事業活動に関係する環境関連法規

適用される法規	適用される事項	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物（事業系廃棄物）、産業廃棄物（建設廃棄物）	適法
建設リサイクル法	特定建設資材、分別解体	適法
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	基準適合の確認・定期検査	適法
騒音規制法	届出対象の建設作業を実施する際の届出	該当なし
振動規制法	届出対象の建設作業を実施する際の届出	該当なし
浄化槽法	設置・廃止の届出、点検、保守	適法
自動車リサイクル法	適正な手順による廃車処理	適法
フロン排出抑制法	・フロン類が充てんされている機器の把握・破棄方法 ・業務用エアコンの簡易点検の実施	適法
家電リサイクル法	対象機器の把握・破棄方法	適法
小型家電リサイクル法	対象機器の把握・破棄方法	適法
農薬取締法	使用基準の遵守	適法
大気汚染防止法	解体工事に係る調査、説明	該当なし
労働安全衛生法	適正な手順による石綿の取扱い	該当なし

違反・訴訟の有無

2023年7月1日に確認した結果、環境関連法規への違反、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟はありません。

また、自主管理においても問題はありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し

弊社の2023年度（第51期）の環境経営活動の全体評価と見直しについて、以下のように報告いたします。

1. 二酸化炭素排出量の削減

「購入電力の削減」については3期連続で目標未達となりました。

当社における主要消費要素であるエアコンにおいては、近年の猛暑の影響で稼働率が高止まりしており、なかなか目標に届かない状況です。

購入電力の対前年比がプラス4.8%と活動の成果は認められておらず、今後も二酸化炭素排出量の削減に取り組んでまいります。

「ガソリン使用量の削減」については、前年は数値目標を未達でしたが、今期は目標を達成した。今期は売上額が大きく減少し、その過程において事業活動が沈静であった事がガソリン使用量の減少につながったと分析しています。

低燃費車両の積極導入については、対象をハイブリッド車のみとし、CO2排出においてディーゼル車と軽自動車は低燃費車とは見做せないとの判断で対象から除外しました。今後もハイブリッド車の積極的な導入を実施し、CO2排出量を減らすよう、活動を継続していきます。

2. 建設廃棄物排出量の削減

建設廃棄物の排出量は受注工事の規模や施工内容によって大きく変動するため、数値目標は定めず、廃棄物の種類ごとの排出量の記録を行っています。

削減活動としては、再利用できるものや売却できるものを選別する等、排出量の削減に努めています。

3. 紙資源使用の削減

文書の電子化に伴い、直近4期を通じて紙資源の使用量は減少しています。今後、電子帳簿法の実施により、紙資源の使用量にどのように影響するか注視していきます。

4. グリーン購入

エコマーク商品を採用する取り組みはあまり成果が出ていません。今後も取り組みは積極的に継続していきます。

以上

代表取締役 加治木 英隆

10. その他の環境経営活動

当社では、JV事業として管理を受託している「福岡市西部運動公園」において、薬剤を使わないで樹木等の害虫の発生を抑える管理法を事業主体の福岡市に提案し、平成24年1月に採用されました。

実施期間も11年となり、確かな効果が得られていることから、環境に配慮したこの活動を本年度以降も継続して実施してまいります。（以下は提案書の一部です）

土壌改良（バイオアクトパウダー）実施計画書

【実施要領】

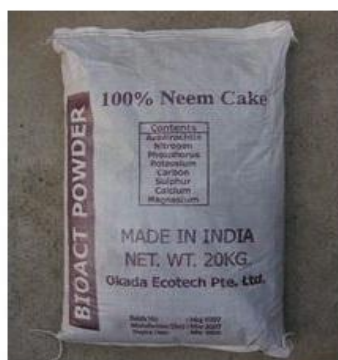
実施範囲は公園を5ブロックに分割して1年間に1ブロックを実施します。

バイオアクトパウダーの使用量を、1㎡当たり45gを標準とし、1ブロック当たり実施面積300㎡で1年に1回実施します。

高木に関しては、樹木周りに溝または穴を掘り、バイオアクトパウダーを散布し、埋戻しを行い、中低木・芝生については直接散布を行います。

画像引用先／有限会社エコ・テクノ社ホームページ

■ バイオアクトパウダー



バイオアクトパウダーはニームの木（インドセンダン）の実を乾燥・粉砕した土壌改良材です。

ニームの木とは熱帯・亜熱帯性常緑樹です。インドではニームが数千年も昔から生活に密着しており、農業をはじめさまざまな分野で活躍しております。

使用目的	土壌改良、微生物活性、環境改善。
使用方法	10a当り約60～100kg施用する。
容 量	20kg